



# すまいるだより

## 「ことばの遅れ」

vol 3

【子育てのご相談】  
 子育て世代包括支援センター  
 「えがお」(健康福祉課内)  
 電話 0241(62)6170  
 メール egao@nani.aizu.org

【参考図書】  
 「ことばの遅れのすべてがわかる本」  
 言語聴覚士 中川信子 監修

**み** なさんこんにちは。今回は「ことばの遅れ」についてご紹介したいと思います。

**子** 育て世代包括支援センター「えがお」には言語聴覚士の資格を持った専門員がいるため、1歳過ぎのお子さんから高校生のお子さんまで「ことば」についての相談を受ける機会が多くあります。

**乳** 幼児の場合、まず相談を受けたときに私たちがお伝えすることは、「ことばを教える前の「心と体を育てること」の大切さです。なぜなら、ことばの育みには順序があるからです。

**こ** とばは、ことばの出し方や話し方にこだわる教え方のみでは、より発達が遅れてしまうと言われています。そのため、ことばは「①身体的基础をつくる」「②こころを育てる」「③ことばをつかさどる脳を刺激する」という順番が大切です。

### ① 身体的基础をつくる

**ま** ずは、生活リズムを整えることが大切です。ことばは脳のはたらきによるもので、生活リズムを整えることで、脳の働きを十分に引き出すことができるようになります。

**ま** た、身体を動かして遊ぶ経験により、身体の全身の運動(走る、ボールを投げる、スキップやケンケンなど)と手先の運動(はさみや鉛筆を使う、折り紙を折る、箸でごはんを食べる、ひもを結ぶなど)が脳に刺激を与えることとなります。



### ② こころを育てる

**お** 家での普段の関わりのことなので、あまり難しく考えずに取り組んでもらえる部分です。

**こ** こでは、楽しい食事、お遊び、おもしろい経験。自分の気持ちがあつてもらえる安心感、大好きな人がいる喜び、ホッとする時間のすべてがこころを育てることになります。

**言** 葉ではない関わり(しぐさで気持ちを伝えることや一緒に遊んでコミュニケーションをとることが大切です。



### ③ ことばをつかさどる脳を刺激する

**い** よいよ、知る・覚える・わかる・まねる・話すという、言葉に直結する部分です。

**こ** とばの遅れで困っているご家族は、どうしてもここから関わろうとしてしまいがちです。話し方ばかりにこだわると、話しかけられる一方の関わりでは、「話したい」という気持ちを失くすことにつながってしまう子どもがいます。

**私** たち大人の多くは、当たり前のように言葉を使っているのに、子どもの苦手が分かりづらいときがあります。いろいろな取り組みをご家庭で試すこともひとつの方法ですが、ことばの発達の理屈を理解して得たかわりをするとは、教えるほうも教えられるほうもとても楽です。

【こ】 とばは個人差がとても大きいものなので、お子さんにあった方法を知りたいときは、気軽に「えがお」へご相談ください。いつでもお待ちしております。

